国民の森林・国有林
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）林

北信署管内での千曲川下流森林計画区懇談会現地視察

森林計画区懇談会開催

（Ｐ２に関連記事）

主な項目

○ 宮･庄川及び千曲川下流森林計画区懇談会開催 …… Ｐ2
○ 平成24年度中部森林管理局決算概要公表 …… Ｐ3
○ 後世に伝えるべき治山～よみがえる緑～ …… Ｐ4～6
○ 各地からのたより …… Ｐ6～8
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… Ｐ8～9
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… Ｐ10

地域の皆様との懇談会を開催

【計画課】九月二十四日（宮・庄川森林計画区）と三十日（千曲川下流森林計画区）に平成二十六年度から始まる地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定に向けた地域住民との懇談会を開催しました。

この懇談会は地域の意見を計画に反映させるため平成二十年度から行っており、両計画区では二回目の開催となりました。

懇談会に先立ち、それぞれの国有林の特色や取組について理解を深めていただくため、宮・庄川森林計画区では山中山ミズバショウ植物群落保護林の獣害対策箇所や搬出間伐実施箇所、千曲川下流森林計画区では治山事業実施箇所やヒノキ複層林施業地などの見学会を行いました。

千曲川下流森林計画区懇談会現地視察

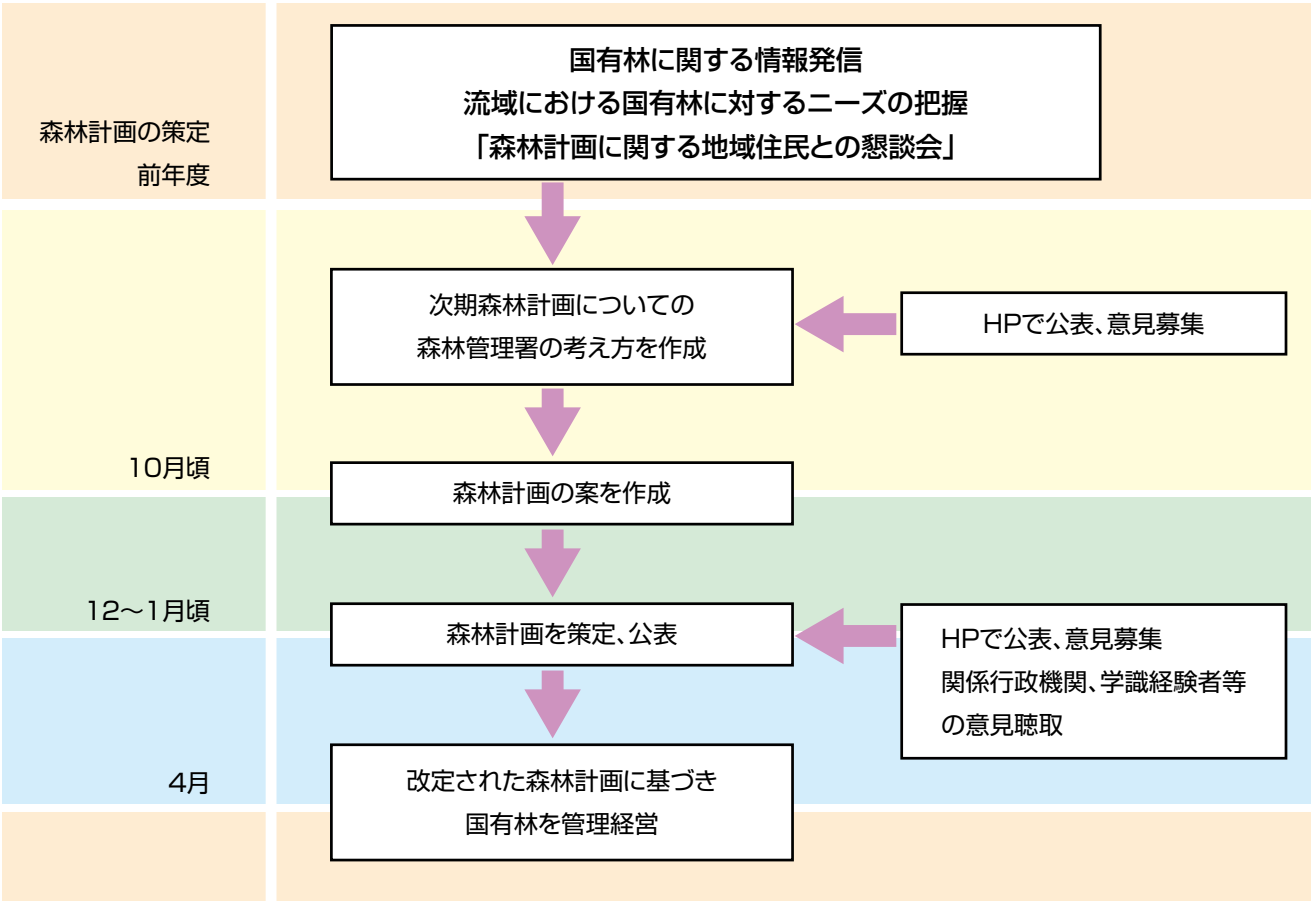
懇談会は、「国有林の森林づくり」と「国有林の保全と利用」の二つをテーマに有識者と参加者の対話方式で意見交換が行われました。

参加者からは「国有林を見学できて良かった。」といった感想のほか、「道路のアクセスなどで国有林と民有林の連携を進めてほしい。」などの意見が出されました。

この二つの計画区では、懇談会での意見等を踏まえ、計画策定に当たっての森林管理署の考え方を作成・公表し、広く国民一般からも意見を求め計画の策定に反映することとなります。

宮･庄川森林計画区懇談会

国有林の森林計画策定の流れ



平成二十四年度 中部森林管理局決算概要公表

［経理課］十月三日（木）、平成二十四年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十四年度の決算は、適切な収支管理を行いつつ、国有林野の公益的機能の維持増進等に積極的に取り組んだ結果、収支では二十億七千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、三十四億四千万円の損失となりました。

■発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、前年度より四千万円増加の三十一億五千万円となり、自己収入全体では前年度より三千万円減少の三十八億六千万円となりました。

一方、一般会計からの受入は、事業施設費財源の増加等から、前年度より二十億三千万円増加の二百四億円となりました。

また、借入金は、既存の借入金のうち平成二十四年度に償還期限が到来したものの借換借入金であり、五億五千万円増加の百三十九億四千万円となりました。

支出については、職員数の減少等により、給与経費等は前年度より六億二千万円減少の五十五億三千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、当年度の東日本大震災森林整備等の事業費の増加等により、前年度より三億九千万円増加の五十九億二千万円となりました。

治山事業費については、当年度事業費の増加等から、前年度より九億一千万円増加の七十八億九千万円となりました。

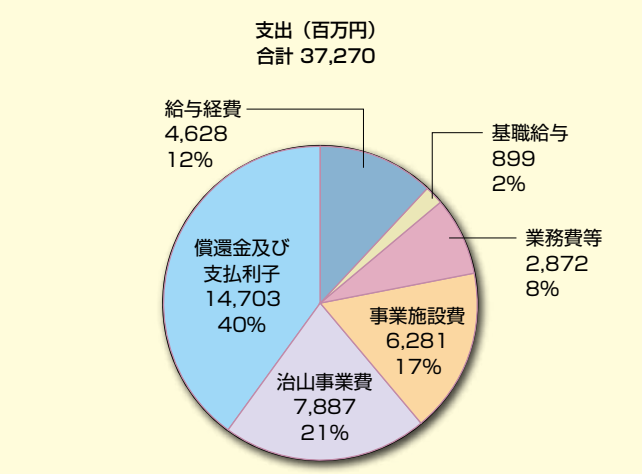
借入金に係る償還金・利子は、前年度より五億九千万円増加の百四十七億円となりました。

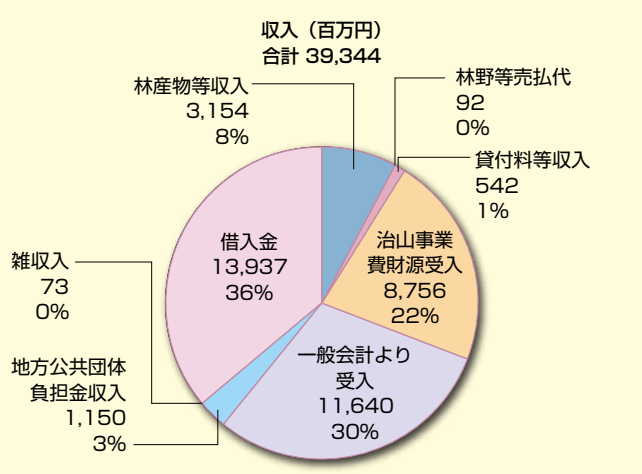
以上の結果、三百九十三億四千万円の収入に対し、支出は三百七十二億七千万円で、二十億七千万円の収入超過となりました。

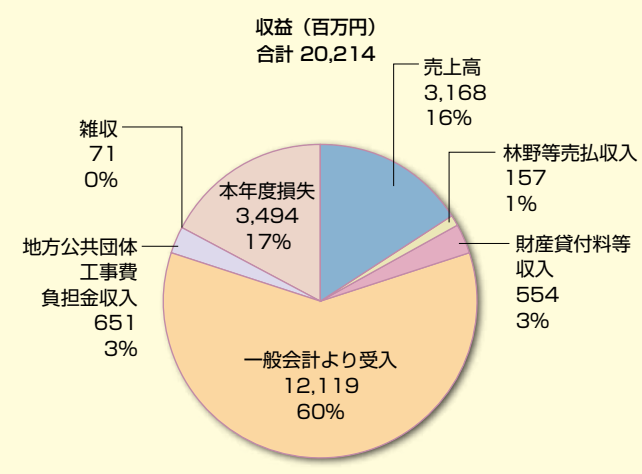
■損益計算

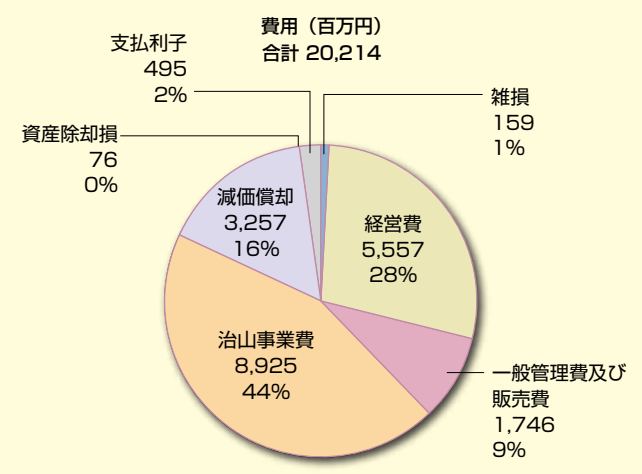
売上高等の増加、経営費等の増加により、損益計算上の損失は前年度より六千万円減少して三十四億四千万円となりました。

なお、国有林野事業特別会計は、「国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する等の法律」の施行により平成二十四年度限りで廃止されたので、その際この特別会計に所属していた権利義務は、東日本大震災復興特別会計及び新たに設置された国有林野事業債務管理特別会計に帰属させるものを除き、一般会計に帰属させることとなりました。









後世に伝えるべき治山 ～よみがえる緑～ の選定箇所を公表

［治山課］林野庁では、森林の早期復旧・再生を実現させる治山事業の重要性や必要性を広く国民の皆様に知っていただくため、治山事業を開始してから百年が経過したことを機に、「後世に伝えるべき治山～よみがえる緑～」選定委員会を設置し、本年七月末までに各都道府県等から推薦された百二十三箇所の候補地の中から選定作業を進めてきました。

選定に当たっては、①技術、②事業の効果、③地域への貢献、④人々の記憶の四項目に、国民や関係者の理解を考慮して評価され、その選定結果が十月三日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で開催された第五十一回治山シンポジウムにおいて公表されました。

選定された箇所は全国で六十箇所、管内四県では富山県で一箇所、長野県で四箇所、岐阜県で一箇所、愛知県で二箇所でした。

詳細は、林野庁のホームページ（http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/suigen/131003.html）等でご覧ください。

なお、当局が治山事業を実施した次の四箇所について選定されましたので、ご紹介します。

1　御岳の土石流跡に緑を甦らせた長野県西部地震災害復旧

（昭和59年～平成25年）【長野県 木曽郡 王滝村】

被災直後

施工中（S61）

現在の状況

位置図

工種配置

●所在場所
長野県木曽郡王滝村御岳国有林

●施設・工法の概要
渓間工
（治山ダム工：137基、護岸工：7,743m）
山腹工：309.73ha（航空実播工：74ha）
保安林管理道：3,800m

●解説（要約）

昭和59年9月14日、長野県西部地震が発生し、御嶽山周辺に崩壊地や地滑りが発生するとともに、これに伴う大規模な土石流などにより、死者・行方不明者29名を出す大惨事となりました。

特に御嶽山南西斜面においては山麓に大崩壊が発生し、約3,600万㎥の土砂が一瞬にして土石流となり、時速約70㎞で山麓を駆け下ったことにより約600ha（東京ドーム約130個分）もの荒廃地が発生するとともに、王滝川に天然ダムが出現し、王滝村村民約1,700名の生命・財産はもとより、木曽川下流の岐阜県や愛知県の農業・水道・工業用水の主要な供給源となっている牧尾ダムへの甚大な被害が懸念されました。

そのため、被災直後には全国の治山技術者が結集し復旧にあたるなど、30余年にわたって数々の困難を克服しつつ被災地の復旧を行い、荒廃地に森林を回復させ、地域住民に大きな安心感を与えるなど、国民の生命・財産を守ることに貢献しています。

また、王滝村、森林管理署、新聞社などが協力し、木曽川下流の都市部などの住民が参加してボランティアで植樹等を行う「未来世紀につなぐ緑のバトン」事業が毎年開催されており、防災、水源に対する住民意識の醸成や都市との交流に役立っています。

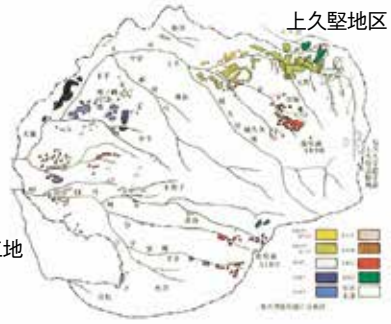
2 砂防学校と共に歩み官民一体となって取り組んだ上久堅（かみひさかたちく）地区の治山工事

（大正6年～昭和31年）【長野県 飯田市】

施工前（昭和26年）

施工後（昭和51年）

飯田市上久堅



着色部分が施工地

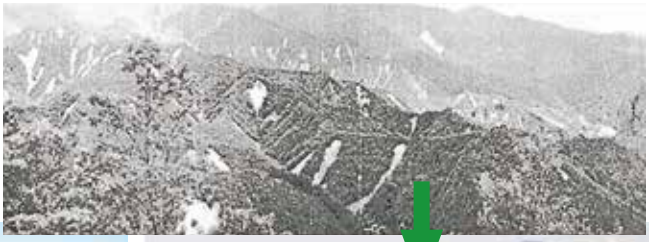
施工前（昭和16年）

施工中（昭和17年）

●所在場所
　長野県飯田市上久堅
●施設・工法の概要
　渓間工（練積堰堤工、練積谷止工、練積床固工）
　山腹工（山腹練積工、山腹空積工、練張水路工、空積水路工、石筋工、萱筋工、積苗工）
●解説（要約）
　長野県の南部、飯田市上久堅地区（旧上久堅村）は、大正6年に長野県によって初めて治水事業が行われた地域ですが、その後県営補助事業、県直轄砂防事業、農林省（山林局）直轄事業と継続され、昭和22年（1947年）には、林政統一により長野営林局に移管され、昭和31年まで民有林直轄治山事業を行ってきました。
　昭和26年に設立された村営の砂防学校と共に官民一体となって復旧に取り組み、150haとも言われたはげ山や崩壊地を森林に復元し、災害の未然防止と地域住民の安全・安心に寄与しています。

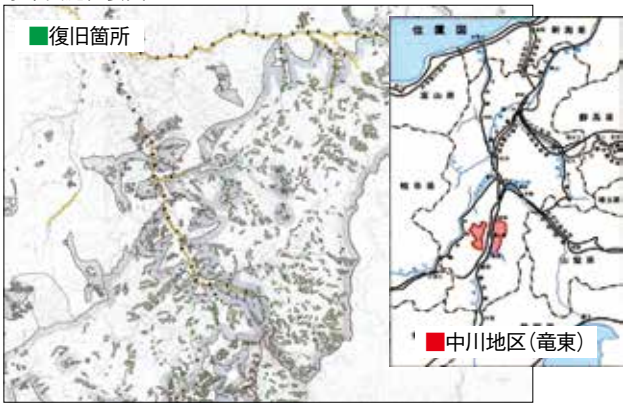
3 伊那谷を襲った梅雨豪雨災害（三六災害）山腹崩壊地復旧

（昭和37年～平成7年）【長野県 上伊那郡 中川村ほか】



上段写真：
災害後の状況
下段写真：
復旧後の状況

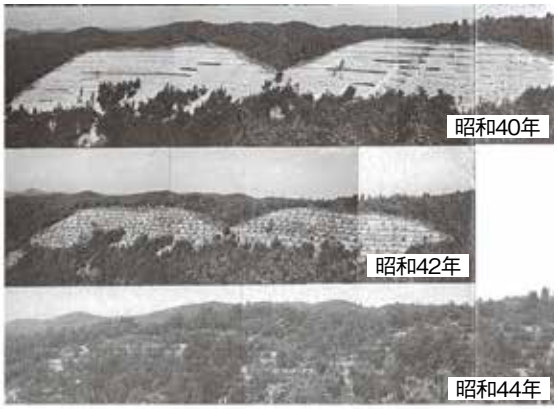
事業実施概要図

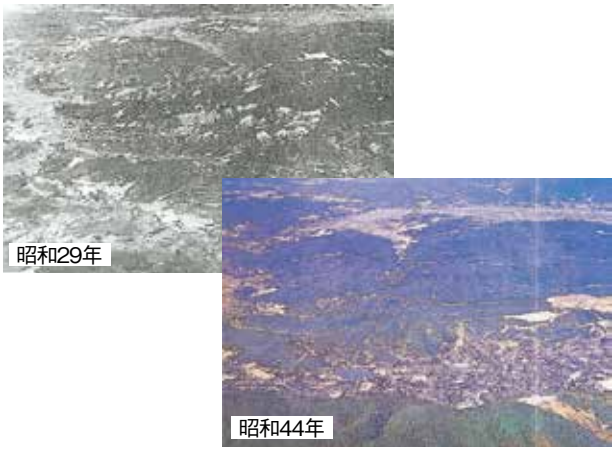


●所在場所
　長野県駒ヶ根市、上伊那郡飯島町、上伊那郡中川村
●施設・工法の概要
　渓間工：371基
　山腹工：360.09ha
　資材運搬路：6.0㎞
●解説（要約）
　昭和36年6月に発生した伊那谷梅雨前線豪雨災害、いわゆる「三六災害」によって、中小河川の氾濫、山地崩壊等による土石流など、死者・行方不明者139名、負傷者999名、家屋全壊585戸等、被害額約300億円にのぼる甚大な被害をもたらしました。
　これらの復旧のため、昭和37年より中川地区民有林直轄治山事業（竜東）が開始され、復旧した四徳地区の森林の一部は森林体験やキャンプ場など地域住民の憩い・ふれあい等の場としても活用されています。

4 土岐地区はげ山復旧治山工事

（昭和7年～昭和45年）【岐阜県 土岐市ほか】





●所在場所
岐阜県土岐市、瑞浪市、多治見市、旧笠原町

●施設・工法の概要
渓間工、山腹工（石積工、積苗工、萱筋工藁伏工、張芝水路工、礫暗渠工 、編柵工、播種積苗工、丸太積工、緑化工）

●解説（要約）
昭和7年（1932年）現在の土岐市、瑞浪市の一部を施工区域とし、当時の経済的不況を背景に失業者救済をかねて、農林省山林局の直轄事業として治山工事が始められました。

その後、昭和22年（1947年）4月の林政統一により、そのままのかたちで名古屋営林局の直轄治山事業として引き継がれ、昭和45年（1970年）1月までの間に実行された面積は約1,576ha、投入された労力は約175万人を超えました。

日本三大荒廃地の一つとまで言われた土岐のはげ山が、奇跡的に緑を回復し、現在は豊かな里山風景となっており、一部は「陶史の森」公園として、市民の憩いの森として親しまれています。

各地からのたより

愛知森林管理事務所を見学しよう

［愛知所］九月二十五日、地域の子供達に国有林の仕事や森林林業を知ってもらうことを目的に「愛知森林管理事務所を見学しよう」と題し新城市立庭野小学校の一、二年生の児童を対象に初めて見学会を行いました。所長による国有林の概要説明や事務所内の案内を行いました。

模型で説明する首席森林官

その後、模型を使って土砂崩れ、水源涵養・洪水防止機能など森林の働きを学んだのち、木や竹の輪切りなどを使った壁掛け作りや、樹木の種の模型作りを行い、種が子孫を残すため遠くまで飛んでいく方法などを学びました。酒向首席森林官の分かりやすく楽しい話に児童達も終始笑顔でした。

また、庭野小学校は当所に近く、児童の中には、職員の子供もおり、なかなか見ることのできない、職場で働いているお父さんの姿も見ることができました。

後日、児童達からお礼の感想文が寄せられ、小学校のホームページに当日の様子が掲載されました。

治山研究発表会で最優秀賞を受賞

［南信署］十月二日に東京都渋谷区で開催された第五十三回治山研究発表会において、当署の澤口主任治山技術官が「特殊な環境（豪雪・強酸性土壌）における緑化方法の模索（馬曲川復旧治山工事）」を発表し、最優秀賞（緑化、環境への配慮、事業実施の工夫等の取組部門）を受賞しました。

最優秀賞を受賞した
澤口主任治山技術官

本研究は、澤口技術官の前任地である北信署での植生工に関する調査・研究について発表したものです。

発表会では、全国の治山に関する研究について四十三課題が発表されましたが、審査委員からは対策工法の検討手法や施工後三年間の経過観察、比較対象地の設定などについて高い評価を受けました。

表彰を受ける澤口主任治山技術官

治山事業は、森林の維持造成を通じて山地に起因する災害から国民の生命・財産を保全し、また、水源の涵養、生活環境の保全等を図る事業であり、現場に今回の研究成果等を活用し、引き続き、より確実な森林への復旧に努めることとしています。

「森林ボランティア・NPO連携推進会議」開催

【技術普及課】 中部局管内で活動する森林ボランティアやNPO団体との交流促進および情報交換や相互研鑽を目的とする「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が、十月四日（金）から五日（土）にかけて、塩尻市内で開催されました。平成十七年に始まった本会議は今年で九年目を迎えます。今年は初めて長野県との共催となり、塩尻市の後援を得ての開催となりました。

参加者の方々

これまでは講演会や、各団体の活動報告会・意見交換会などに重点を置いていましたが、今年は参加団体の見識を広げることを目的に、「薪の利用・普及」をテーマに掲げ、飯田市の薪ストーブユーザーが中心となって林地残材等を有効活用する任意団体「薪人（まきびと）」を講師に招き、塩尻市内の市有林において「簡易索道を用いた集材のデモンストレーション」を見学するプログラムとなりました。玉切りした材が、ワイヤーではなくロープとウインチを用いてゆっくりと牽引される様子に、参加団体の誰もが感心し、熱心に質問したり体験したりと軽量で新しい集材の形に興味津々でした。

簡易索道を用いた集材のデモンストレーション

また、塩尻市を中心に里山整備を行う「一期会（いちごかい）」によるアカマツ大径木の伐採実演や、翌日のイベントで用いるクラフト用材料の収集などを行い、秋晴れの下充実の初日となりました。

二日目に行われた「森・ふれあいフェスタ」は、台風接近による不安定な天気予報の下、塩尻市の「道の駅　小坂田公園」にて開催されました。開会式には地元塩尻市長よりご挨拶をいただき、続いて塩尻市のゆるキャラ「げんすけ」くんにも登場していただきました。また、長野県緑の基金の協力を得て、初めて参加者へ募金を呼びかけました。

カンナくずで遊ぶ子供たちとげんすけくん

フェスタ恒例の「わら細工（裏木曽古事の森育成協議会）」や「竹とんぼ（N

ツリークライミング

PO法人やまぼうし自然学校）」、「竹笛（NPO法人名古屋シティ・フォレスター倶楽部）」、「ドパスアート（国土防災技術株式会社）」などが並ぶ中、今年のテーマに沿って「薪割り体験（薪人・一期会）」のブースも設けました。軽トラックのタイヤを積み上げた中に丸太を入れ、ヨキを使って割っていくのですが、参加した子どもたちや大人でさえも慣れるまで四苦八苦。スタッフにコツを聞きながら一生懸命重たいヨキを振り下ろしていました。

今年はさらに新たな催しとして「ツリークライミング（ツリークライミングクラブ　WITH）」のデモンストレーションを開催。今年度のツリークライム国内大会優勝者である松岡秀治氏を招き、公園内のケヤキを用いて世界レベルの技術を披露していただきました。ロープ一本で樹上に上がり、枝から枝へと渡り歩く姿に、見学者からは歓声があがりました。

悪天候の予報が災いして公園への親子連れが非常に少なかったことが少し残念ですが、管内の森林ボランティア・NPO等十六団体が集まり、にぎやかに情報や意見を交換して交流を深めた二日間となりました。

この二日間の反省点は今後に活かすこととし、次年度はついに第十回目を迎える「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を各団体の皆さんと共にさらに盛り上げていく予定です。

カラマツ新緑写真コンテスト表彰式を開催

【企画調整課】九月十八日、長野県庁において、「カラマツ新緑写真コンテスト」の表彰式を開催しました。

当日の表彰式には最優秀賞受賞者を含む五名の入賞者と主催者が参加して行われ、冒頭、主催者である長野林政協議会会長の塩入長野県林務部長から、信州カラマツの魅力などを交えた挨拶を、続いて入賞者に対し塩入部長から表彰状（ひのき製の楯）を贈呈しました。副賞として、最優秀賞には漆塗りのサワラ製寿司桶、優秀賞には木曽ひのき製小判メンパ（弁当箱）と漆塗りひのきマイ箸セットが贈られました。また、鈴木中部森林管理局長より、応募のあった百八点の作品の審査方法についての説明と入賞作品を大勢の方々に見ていただく活用策などを交えて講評がされました。

入賞者の方々及び局長（右）、林務部長（左）

入賞者の方々との懇談

その後、林務部長室で行われた懇談会では、「カラマツの新緑は日々色が変化するため撮影するタイミングが難しかった」、「新緑時期を逃したかと思ったが、標高の高い所は新緑が残っていた」、「光線の当たり方を合わせるのに苦労した」、「偶然、カラマツ林の中から家族が出てきたので撮影した」など、撮影時の苦労やエピソードが披露されました。

シリーズ「森林官からの便り」

【南信署　諏訪南森林事務所】　下城　大作　森林官

諏訪南森林事務所は、長野県茅野市に所在しており、当森林事務所が管轄する国有林は、北部の蓼科山から南部の編笠山の間に標高二千メートル以上の山峰が連なる八ヶ岳地域の六千六百三ヘクタールと、標高九百二十メートル～千六百四十メートルで赤石山脈の最北端に位置する金沢地域の七百十三ヘクタールからなっています。

赤岳

まず、八ヶ岳地域は冷山、東嶽、青岨、鷹巣場、西嶽、編笠山の六つの国有林からなります。

本州のほぼ中央、長野県と山梨県にまたがる八ヶ岳は、個性的な山々が連なる山塊で、夏沢峠を境に主峰の赤岳を中心に力強い岩峰が連なり、入門者から本格登山まで多彩な登山ルートが張り巡らされています。

稜線にはお花畑が広がりコマクサなどの希少な高山植物が可憐な姿を見せてくれる南八ヶ岳と、原生林が生い茂り、大小いくつもの神秘的な池が点在し、傾斜がなだらかで岩場が少なく森が多いためハイキングから本格登山まで楽しめる北八ヶ岳に分かれています。

電気防鹿柵の設置

それぞれに山登りが楽しめる山として登山者にもたいへん人気があります。

しかしその一方、近年はニホンジカによる樹木や高山植物等の食害が深刻な問題となっており、市町村など関係団体や各山小屋関係者等と連携して、くくり罠による捕獲や電気防鹿柵等を設置して高山植物等を保護する取組を積極的に実施しています。

次に金沢地域にある金沢山国有林は、戦国大名の武田信玄が金を採掘した八カ所ある金山のうちの一つとされ、金沢金山は、金鉱脈が鶏が羽を広げた姿に似ていることから「金鶏金山（きんけいきんざん）」とも呼ばれています。

児童の林業体験

当金沢山国有林は人工林率が九十五パーセントで、その内の五十パーセントがカラマツ林となっています。今年度は立木販売の実施や、毎年春先には「金鶏グリーンディ」と称して分収造林地である地元小学校の学校林において森林教室も行われています。

これまで挙げたこと以外にも収穫調査や境界巡検、生産・造林事業の監督業務や安全指導の実施、ふれあいの郷の管理やレクリエーションの森の整備、定期的な外部会議など多種多様な業務を担っています。

今年度より初めての森林官業務に携わっていますが、突発的な事案も多く日々の対応に追われています。大変な事も多くありますが、現場の最前線で働く者として地域の皆さんとの関わりや繋がりを大切にしながら業務に携わっていきたいと思っています。

安全指導をする下城森林官

人のうごき

中部森林管理局人事

十月一日付

▽南信森林管理署首席森林官（駒ヶ根・伊那担当）〔経理課経理第一係長〕　羽場　達夫

▽総務企画部経理課経理第一係長〔経理課支出係長〕　坂口美智恵

▽総務企画部経理課支出係長〔北信署主任森林整備官（森林ふれあい・資源活用担当）〕　岡本　守

▽南信森林管理署首席森林官（下諏訪・横川担当）〔南信署主任森林整備官（経営・森林ふれあい担当）〕　飯島　隆男

▽南信森林管理署主任森林整備官（経営・ふれあい担当）〔南信署首席森林官（駒ヶ根・伊那担当）〕　寺澤　茂雄

▽北信森林管理署（長野・戸隠担当区）〔南信署　　俣野　篤樹

行事・会議等の予定

◎中部森林管理局有志協議会連絡協議会
11月5日　松本市

◎中部ブロック準フォレスター連携会議
11月6～7日　下呂市他

ご当地自慢

岐阜県高山市編

6

飛騨森林管理署

◆高山祭り

高山祭りは、岐阜県高山市で毎年開催される祭りのうち屋台が複数出る祭りの総称で、春の山王祭と秋の八幡祭があります。

中橋を渡る屋台（春の山王祭）

日本の三大美祭の一つにも数えられるこの祭りは、飛騨高山の風物詩であり、その起源は十六世紀後半から十七世紀といわれています。

◆春の山王祭

春の山王祭は、旧高山城下町の南半分の氏神様として崇められる日枝神社（山王様）の例祭で、毎年四月十四日・十五日、うららかな春の訪れとともに安川通り（国道一五八号線）南側の上町を舞台に繰り広げられます。

祭りの華は、なんと言っても絢爛豪華な屋台で、山王祭の屋台組が誇る十二台の屋台が曳き揃えられた様は、「動く陽明門」ともいわれています。また、三台の屋台で行われるからくり奉納、伝統衣装をまとって古い町並を歩く御巡幸、提灯を灯した屋台が祭囃子を奏でながら町を一巡する夜祭など、悠久の歴史を感じさせる祭絵巻が人々の心を魅了します。

北三番叟「童子」から「翁」へ（春の山王祭）

◆秋の八幡祭

秋の八幡祭は、旧高山城下町の北半分の氏神様として崇められる桜山八幡宮の例祭で、毎年十月九日・十日、安川通り北側の下町を舞台に繰り広げられます。

布袋台カラクリ奉納（秋の八幡祭）

祭りの目玉は十一台の屋台による威風堂々たる曳き廻し・曳き揃えの様子です。まるで江戸時代の高山へ迷い込んだような華やかさです。また、古式ゆかしい御神幸、からくり奉納、幻想的な宵祭りなどの伝統行事も披露され、時を忘れる感動につつまれます。

屋台曳き揃え（秋の八幡祭）

◆アクセス

〔名古屋方面から〕

名古屋から高山までは、ＪＲ高山本線で約二時間二十分、高速バスで約二時間四十分です。

〔東京方面から〕

新宿から高山までは高速バスで約五時間三十分、ＪＲ松本駅からは約二時間二十分です。